

冬は特に注意！ やけどについて

千葉県小児科医会 理事 はらき まな 原木 真名 医師

冬は、暖房器具の使用や熱いものの飲食などの頻度が高まるため、やけどのリスクが増加します。やけどの予防をしっかりと行くと共に、適切な対処法を知っておくことが重要です。

■ やけど直後の対処法

やけどをした場合、まずはすぐに患部を冷やして熱傷の進行を防ぐことが大切です。水道水の流水で冷やしましょう。冷やす時間は、10分程度を目安にします。小さいお子さんでは低体温に注意してください。流水が使用できない場合は、アイスノン等で冷やします。

■ やけどの重症度

◎やけどの重症度は、広さと深さで決まります。また、やけどした場所も影響します。

● やけどの広さ

体の10%を超える範囲のやけどは重症です。救急車を呼びましょう。

手足1本がおよそ体の表面積の10%、お腹、背中、頭部は20%にあたります。

● やけどの深さ

やけどの深さは大きく分けるとⅠ度、Ⅱ度、Ⅲ度の3段階に分類されます。

Ⅰ度：日焼けと同じように皮膚に赤みが出る程度です。ヒリヒリと痛いですが、外用剤などでほとんど後遺症を残さず治ります。

Ⅱ度：水ぶくれができるのが特徴で、ヒリヒリとした痛みを伴います。Ⅱ度のやけどは深さによって更に2つに分けられま

す。深いと癬痕はんこんが残ることもあります。水ぶくれは破らないようにして、保護します。破れてしまった場合には、創面を癒着しない被覆材で覆います。ワセリンなどの軟膏で保護すると痛みが軽くなります。水ぶくれが破れた場合には感染のリスクがあるため、医療機関の受診をお勧めします。

Ⅲ度：かなり深いやけどです。皮膚に血の気がなくなり白くなったり、炎で受傷した場合には炭のように黒くなったりします。痛みを感じる神経まで損傷されるので逆に痛くないのが特徴です。緊急の受診が必要です。

● やけどの場所

手足のやけどは、くっついてしまったり、治ったあとに曲げられなくなったりすることがあるため、医療機関の受診が必要です。顔面・陰部も特殊部位なので、受診しましょう。

やけどの予防

やけどに限らず、事故は予防が大切です。熱くなる暖房器具には近づかないようにガードをつけます。

熱い飲み物や食べ物を置くときには子どもの手の届かない場所に。抱いたままホットドリンクを飲むのはやめましょう。使い捨てカイロ等による低温やけどにも注意が必要です。



こども急病電話相談

受診するべきかどうか迷ったら

#8000

毎日夜7:00~翌朝8:00

※相談は無料ですが、通話料はご負担いただけます。

ダイヤル回線・IP電話・光電話・銚子市からは
☎043 (242) 9939